

ナシ害虫チャノキイロアザミウマの防除支援情報システム

「チャノキイロなび」の開発

○中井善太¹・大谷徹²・河名利幸¹・牛尾進吾¹

¹千葉県農林総合研究センター

²千葉県農林水産部担い手支援課

ナシの害虫であるチャノキイロアザミウマは、千葉県ではナシ園内で越冬した成虫が4月上旬頃ナシ樹に移動して増殖を始め、6月下旬頃から急激に増加して落葉等の被害を発生させる。本種の防除としては、比較的発育ステージが揃っている第1世代の幼虫及び成虫に対して薬剤散布を行うと効果的であるが、こうした発生初期の低密度時に微小な本種を把握することは困難であった。こうした状況をふまえ、アメダスデータを用いて本種の発生時期を予測するモデルを開発した。本モデルは越冬後の成虫が越冬場所となっているナシ園の土壌から離脱する時期（河名・大井田、2013）を日最高気温等のデータから算出することで起点日とし、その後の気温データから第1世代及び第2世代各ステージの出現時期を算出する。これにより、防除適期である第1世代の幼虫及び成虫の発生時期を把握することが可能となる。さらに、インターネット上のアメダスデータを取得して入力することで、パソコン上に本種の発生時期を表示させる防除支援情報システム「チャノキイロなび」を開発した。本講演では、システムに基づいて予測した本種の防除適期に防除を行った実証試験の結果について、併せて報告する。

Development of a Decision Support System for the Control of Yellow Tea Thrips, *Scirtothrips dorsalis* Hood in Pear Orchards.

Zenta Nakai¹・Toru Ohtani²・Toshiyuki Kawana¹・Shingo Ushio¹

¹Chiba Prefectural Agriculture and Forestry Reserach Center

²Chiba Prefectural Agricultural Extension Division